



尊敬する父の、天下一品を世に広めたい。

火の国阿蘇の
恵みのブランド

然 zen A s o C i t y

農業高校で食品加工の教壇に立っていた父は
定年退職後も、趣味でハム・ソーセージを作っていました。

子どものころから、こんなにおいしいもの

よそではぜったい食べられないと確信していた

息子池田智巳さんは、尊敬する父の天下一品を世に広めたい、

そのことを念じつつけていた。

そして三十歳を過ぎ、ついに脱サラする。

「迷いや不安はありませんでした。味を信じていたから」

阿蘇ひばり工房の発端だ。父は息子に徹底的に技を受け渡す。

「おやじ伝授の味がどのくらい世界に通用するか……」

試みに「ドイツ食肉コンテスト」に参加すると、

みごとウインナーとベーコンが金賞を受けるという快挙。

むかしながらの丹念な手づくりが、

本場の舌をうならせたのです。

阿蘇ひばり工房 池田智巳

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。